

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079600500
法人名	有限会社ハーティーマインドなぎの
事業所名	グループホーム ハーティーマインドなぎの
所在地	福岡県田川郡川崎町大字安真木3379番地の1 (電話) 0947-72-7778

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	H21年 7月 2日	評価確定日	H21年 8月 6日

【情報提供票より】 (平成21年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 7月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,340 円		

(4) 利用者の概要 (平成21年6月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	5名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.3歳	最低	75歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川口医院(内科、耳鼻咽喉科、循環器科) ひらつか歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、自然あふれる田園の中に立地し、畑・花壇に囲まれ、和風の趣がある。同敷地内には有料老人ホーム・ケアハウスが併設され、日常的に交流がある。近隣の保育園、養護学校、中学校の行事への参加やボランティアの受け入れ、町主催の文化祭への作品出品、廃品回収や夏祭りへの参加等、地域と積極的に交流している。四季の移ろいを感じられる環境での散歩・野菜作り・買い物等の外出や利用者のしたいこと、役割等をこなす機会を多くし、利用者主体のペースで時間がゆっくりと流れ、利用者・職員が穏やかでお互いを支えあう家庭的雰囲気がある。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での改善課題について、改善目標を優先順位に上げる等、具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で自己評価を記入し、職員会議で数回の話し合いを行い、管理者が意見を集約している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を定期的開催し、事業所の活動や問題点及び外部評価の報告を行い、意見を求めている。委員からの意見をサービス向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>家族来訪時に意見や要望・苦情を聴取し、オムツ代の費用を見直す等して、意見を運営に反映させている。また、家族等へ事業所以外の苦情に関する第三者相談窓口を繰り返し説明している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の保育園へのお遊戯会や運動会の見学、中学校の職場体験やボランティアの受け入れ、文化祭や廃品回収、どんと焼き、老人会等の地域行事へ参加している。また、事業所主催の敬老会、餅つきの案内等を行い、積極的に地域と交流することに努めている。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域と交流を深め」と、事業所独自の理念がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、朝礼時に理念を唱和し、日々の業務の中で理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の保育園へのお遊戯会や運動会の見学、中学校の職場体験やボランティアの受け入れ、文化祭や廃品回収、どんと焼き、老人会等の地域行事へ参加している。また、事業所主催の敬老会、餅つきの案内等を行い、積極的に地域と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を記入し、職員会議で数回の話し合いを行い、管理者が意見を集約している。前回評価での改善課題について、改善目標を優先順位に上げる等、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、事業所の活動や問題点及び外部評価の報告を行い、意見を求めている。委員からの意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>時折、行政窓口に出向き、運営推進会議の議事録や事業所便りを持参している。</p>	○	<p>事業所が抱えている問題の相談や現状を報告する機会をつくる等し、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでほしい。</p>
7	10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>施設長や管理者は、制度について研修を受け、職員会議で伝達講習を行っている。パンフレット・テキストはある。職員は権利擁護や成年後見人について理解しており、必要に応じて活用できるよう支援している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時に、利用者の暮らしぶりや健康状態を報告している。4ヶ月1回発行の事業所便りには、利用者全員の写真を掲載し、その暮らしぶりや行事の案内、職員紹介をしている。金銭管理については、家族来訪時に金銭出納簿を明示している。緊急時には電話で報告している。</p>		
9	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族来訪時に意見や要望・苦情を聴取し、オムツ代の費用を見直す等して、意見を運営に反映させている。また、家族等へ事業所以外の苦情に関する第三者相談窓口を繰り返し説明している。</p>		
10	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>施設長や管理者は労働条件を改善して、離職を必要最小限に抑える努力をしている。職員が離職等した場合は、利用者へのダメージを防ぐために職員間の引継ぎ期間を十分に設けている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。定年後も働く意欲のある人は、継続採用している。採用後はスキルアップや資格取得が出来るように勤務時間を調整する等配慮し、支援している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育は外部より講師を招き、全職員が研修を受講している。事業所内には人権テキスト・パンフレット・研修記録がある。家族来訪時にはパンフレットを渡す等し、人権教育・啓発活動に取り組んでいる。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>併設の事業所と合同で内部研修を実施し、2ヶ月に1回の職員会議時にも内部研修を行う等、日常的に学ぶ機会を設けている。職員の資格取得やスキルアップできるよう支援をしている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>事業所のケアマネジャーが地域のネットワークに参加し、情報交換や研修を行っている。</p>	○	<p>多くの職員が同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていくよう取り組んでほしい。</p>
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者の状況に応じて、本人との面接や家族と相談しながら、利用開始前に見学・体験入所や職員の自宅訪問を行っている。やむを得ず即入所の場合は、家族にも事業所で一緒に過ごしてもらい、職員が常に利用者寄り添う等して、安心感を持てるよう工夫している。</p>		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者と共に、掃除、野菜作り、料理の味付け、習字教室、はり絵等を行い、利用者の得意分野で力を発揮できる場面を作っている。また、職員が悩み事を相談し、利用者の知恵や人生の経験から話しをしてもらうことがある。共に支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日々の関わりの中で、利用者に声をかけ、一人ひとりの思いや希望の把握に努め、全職員で確認して支援している。意思疎通が困難な場合は、家族等から情報を得て本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、職員、家族等の意見を反映して、ケアマネジャーが作成している。本人・家族へ説明し、同意の署名、押印がある。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、3ヶ月に1回、また利用者の状態変化に応じて、見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者が入院した場合は、見舞いを行い、早期退院について家族、医療機関と連携を図って取り組んでいる。通院介助や連携医の往診等、必要な支援は柔軟に対応している。</p>		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人・家族の希望を聴取し、かかりつけ医へ希望があれば受診支援を行い、連絡方法や緊急時の医療についても家族と話し合っている。往診や夜間の急変時に、適切な医療を受けられるように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について方針がある。家族、かかりつけ医、連携医、職員等と話し合い、合意を図って全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、内部研修等を実施し、職員のプライバシーに対する意識向上を図っている。記録は他の利用者や家族の目に触れないように事務所の戸棚で保管し、トイレ誘導は居室で声をかける等して、プライバシーに配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、食事や入浴時間、買い物、散歩等、利用者の希望にそって柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けを行っている。職員は見守りや介助をしながら、食事は同じテーブルで、全員が利用者と同じものを食べている。毎月末には「握り寿司の日」を設ける等、食事が楽しみなものになるよう工夫している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望等にあわせてタイミングを計る等し、入浴を楽しめるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者の生活歴や興味等を活かし、書や貼り絵、園芸等、役割や楽しみごとの支援をしている。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者の状況や希望また天候等に配慮して、散歩、買い物、ドライブや外食を行い、希望にそって戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中、居室及び玄関は施錠していない。職員は外出傾向のある利用者を把握して、見守りを行っている。</p>		
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>マニュアルを作成している。年1回、火災訓練を実施している。また、非常用食料や飲料水、備品等を準備している。</p>	○	<p>今後は非常時に備え、事業所だけの訓練ではなく、最低年2回、地域住民の参加や協力を得ながら、避難訓練等を実施してほしい。</p>

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>全利用者の栄養摂取量及び水分摂取量の記録がある。献立は、年2回、栄養士のアドバイスを受けている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は、利用者の作品等が飾られ、家庭的雰囲気に配慮している。また、天窓を設置して自然採光を取り入れ、職員の声の大きさはちょうどよく、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者は馴染みの家具やテレビ、書籍、小物等を持ち込み、それぞれ個性的な居室となっている。西日が強い窓にはレースのカーテンとよしずを立てかけている。また、家族が宿泊できる等、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		

※ は、重点項目。